

防犯寸劇グループむつみ会（石川県）

皆様、こんにちは、どうぞよろしくお願いします。

今日の発表は、大きく3つに分けました。まず1つ目は、グループ結成のきっかけについて。2つ目は、グループ結成後の主な活動内容について。3つ目は、活動を通じて感じていることと、今後の思いなどについてお話しします。



グループ結成のきっかけ

平成 14 年6月、地域のサークル活動で、定年間際の仲よし5人が久しぶりに出会い、「ねえ、退職したからって家にこもるのもまだ早いし、まだまだ元気もあるから、地域へ恩返しとして何か少しでも役に立つことがしたいね。」との会話から、じゃあボランティア活動をしようということになりました。「活動するに当たり、ボランティアの勉強が必要では。」との思いから、いくつかの老人福祉施設やボランティアグループなどを見学させていただき、また活動に役立ちそうな講演会などにも足を運び、活動の仕方を学びました。



そして半年後、現状で無理なくできることから始めてみようということで、まず自分たちの住んでいる地域の老人会長と町会長と相談し、地域に住んでいる高齢者を集会所に招き、メンバー手作りの昼食とおやつでもてなし、レクリエーションなどで1日を楽しむ「いきいきサロン」を開きました。活動するに当たりお金が必要なことから、5人が1万円ずつを出し合って資金とし、メンバーの一人の「親睦という言葉が好き」という一言で、グループ名を「むつみ会」と名付けました。そして、市町村合併前の中島町社会福祉協議会にボランティア団体として登録し、活動中に事故や怪我などがあっては困ることからボランティア保険にも加入し、現在に至っています。

近年、人間関係の希薄化が問題となり、特に高齢者の孤立化や引きこもりへの防止を目的に、毎月1回、メニューを決めて食材選びから、作ってもてなすサロン活動を継続し、今年で10年目に入ります。

そんな中、平成 15 年7月、いきいきサロンに通う高齢者が、高額な 38 万円もする布団を契約する悪質商法の被害に遭い、クーリングオフもできず困っていることを知りました。日中留守を預かるお年寄りが悪質商法に狙われ、人口 7,000 人くらいのこんな田舎の中島町にもそのような犯罪が身近に起きていることを認識させられました。「これでは町が大変なことになる。他人事ではないぞ。」との思いから、被害に遭わないために何かよい方法はないだろうかと思案し、メンバーみんなで知恵

を出し合い、いきいきサロン開催時に即席の寸劇で被害防止を呼びかけたところ、「わかりやすくおもしろかった。知らない人が来たら気をつけるよ」「困ったことがあったら、必ずむつみ会さんに相談するわ」

サロンでの活動



たこ焼きづくり
スカットボール
男性の巻きずし作り



など、思いのほか反響が大きくて、このことが七尾警察署の目に止まり、平成15年11月、七尾警察署の高齢者被害防止対策員に委嘱されました。

その後、メンバーも1人2人と増えていき、現在は13人がスタッフとして、失敗と反省を繰り返しながら、年間7、8回の寸劇を繰り返しております。そして、このことが地元新聞やケーブルテレビなど多くのメディアでも紹介されました。

また、平成17年には、それまでの活動を認めていただき、石川県警察本部の防犯活動アドバイザーにも委嘱され、現在も継続中です。



主な活動



先ほども触れました、高齢者を集会所に招くいきいきサロンでは、おまわりさんによる防犯教室、交通安全教室、保健師さんによる健康教室、町づくり推進委員による食育活動、そのほか空き缶拾いや花壇づくりなどの美化活動なども取り入れ、高齢者と一緒に講演を聴き、食生活や健康にも注意するなど、ともに学んでいます。

いきいきサロンは、まだ現役で仕事をしているメンバーもいますので、日曜日に開催しています。月に1度、日

曜日に、お年寄りがいきいきサロンに出かけるというので、お嫁さんを始め家族の皆さんにも大変喜ばれ、地域の家庭円満にも貢献しています。また、月1回、町内にある老人福祉施設のグループホームへ出かけ、手作りのお菓子を持参し一緒に抹茶をいただくお茶会や、ゲームや歌、体操などを楽しむ慰問活動も行っています。そのほか、毎月第4水曜日には、町内にある中島健康福祉センターで、高齢者グループと一緒に、四季折々の懐かしい童謡や替え歌を使っての体操、折り紙やペットボトルを使っての工作など、それぞれのメンバーの特技を生かした活動をしています。

また、地域にある公民館の行事やイベントなどにも、スタッフとして参加しています。公民館は廃校になった小学校を利用して、部屋もたくさんあることから、寸劇の小道具の保管場所として、また小道具づくりの場所として、そして寸劇の練習場として、私たちにはなくてはならない場所となっており、公民館とむつみ会が互いに協力し合う形となっております。

活動をして感じたこと、今後への思い

最初は、舞台に使う小道具などはすべてメンバーの手作りで製作していました。その分、舞台の準備にはかなりの時間と経費が費やされました。その後、時間と経費の問題は、七尾市協働のまちづくり推進事業の助成、地域の底力向上支援事業の助成対象に、これらの活動が該当することがわかり、その助成に申請して補助を受けることができました。



そのほか、石川県県民生活課が実施する草の根防犯座談会での公演料、民間企業のボランティア助成事業などを活用して予算を確保し、舞台設備やスピーカー、ワイヤレスマイクなど音響設備を整え、機材の充実を図りました。そのおかげで、すべて手作りだったころに比べて、舞台の準備も大変スムーズになりました。しかし、他の行事やメンバー個々の所用などとも重なり、当日上演間際に、それぞれの役割や配役の交代が生じることも多々あり、大変苦労もありました。また、マイクの調子が悪かったり、

時計の音を出す時計の電池切れがあったり、機材のトラブルなどもあったりして、毎回笑いと思つて反省の繰り返しで会を重ねてきました。それでも、劇が終わってから、「詐欺みたいな電話がかかってきてね。本当は息子はおらんけど、『息子と替わる』と言ったら切られたわ。」「今まで鍵かけんでも安心と思つたけど、やっぱり鍵はしっかりかけなだめやね。」「うちにおつたらこんなおもしろい話聞かれなんだわ。いろいろ教えてくれてありがとね。」と高齢者の意識に変化が現れ、感謝や励ましの手紙、言葉をもたらしたときに、私たちの活動がほんの少しでも被害防止の役に立っていることに、本当に喜びとやりがいを感じているところです。

寸劇以外のボランティア活動は、地元であることから無理なく活動ができるのですが、寸劇は県内各地から依頼されるため、現地までの所要時間、上演場所、会場設備の有無、必要な小道具選びなど、遠方であればなおのこと事前の確認が不可欠であり、今振り返ると、支えてくれた七尾警察署や七尾鹿島防犯協会、石川県警察本部の皆さんのご指導やご理解、ご協力があったからこそと、深く感謝しております。

右上の写真をご覧ください。こんなこともありました。寸劇上演の日にメンバーの1人がどうしても孫を預けられなくてはならなくなり、一緒に連れてきた孫2人にも寸劇に出演してもらい、大人ばかりの会場は大変和やかになりました。

また、平成19年の能登半島地震では、避難所暮らしのため自宅を空けている人がたくさんいたことから、鍵かけの寸劇や悪質リフォーム詐欺の寸劇を上演し、大変感謝されました。余談になりますが、私たちはこのいきいきサロンの経験があつてこそ、地震などの災害時に、安否確認や炊き出しなど、多くのボランティアを進んでできるグループになったと自負しています。



私たちは、寸劇などを通して、10年間でおよそ100回を超え、悪質商法や振り込め詐欺の被害防止、鍵かけ運動の啓発などを呼びかけてきました。今年はずでに2回上演し、このあと6月、7月、9月には4回の予定が入っております。すべて遠方です。

私たちは、自分たちの町は自分たちで守る、その意気込みでいろいろなボランティア活動はしていますが、今後地域に根ざした活動を無理なく末永く続けるためには、まず家族の理解と協力を得ながら、メンバー同士の絆を深め、自分たちや家族の健康にも留意していくことが何よりも大切だと思っています。さらに、この活動を次世代に引き継ぐためにも、地域の若い人たちに声をかけ、むつみ会の活動を理解してもらい、メンバーを増やしていけるようにも努力をしていきたいと思っています。

振り込め詐欺や悪質商法は減少するどころか、震災を口実に、人の弱みにつけ込む手段でだますなど、日々、次々と変化し、新たな手口が開発されて、高齢者だけでなく、若い人にとっても複雑で大変難しいものになっています。これからも今まで以上に警察署との連携を密にしながら、その都度出される被害防止対策を誰もがわかりやすく納得できる内容や表現を勉強しながら、私たちの寸劇を見た人が絶対に被害に遭わないようにと願いつつ、高齢者はもとより幅広い年齢層にも被害防止を訴えていきたいと思っています。

「では、これから寸劇を披露させていただきます。」と言いたいところですが、時間の都合もありますので、今後も温かい応援をよろしくお願いして、発表を終わります。



質疑応答

●質問 メッセージを伝えるというのはすごく難しいことだと思います。特に、お年寄りや福祉施設に入所されている方々に伝えるということは、より一層の心配りが大切かと思うのですが、どういったところに配慮をして、わかりやすく伝えられていますか。

○回答 まず、確認やいろいろな打ち合わせに行ったときに、対象者の人数や様子をお聞きして事前に把握し、高齢者が多い時は、ゲームや手遊びなどでコミュニケーションを取ります。そして大事なことは、先ほどの写真にも出ていたかと思いますが、カレンダーの裏紙を使って大きく文字で書いて、みんなの耳に届くように、わかりやすく「『穴・深そう(あ・な・ふ・か・そ)』と覚えて」というように、会場の皆さん、参加者にも私たちと一緒に反復、唱和して、少しでも耳と心に残して、帰っていただくようにしています。